

札幌地区 教育経営研究会

(兼 札幌市小学校長会 10月研修会)

- 1 目的 北海道小学校長会、及び札幌市小学校長会が抱えている教育経営上の具体的な課題を基にした共同研究主題及び各専門部の研究副主題に関する研究実践の成果を発表・交流し、会員の職能向上を図り日常の学校経営に反映させると共に、校長の役割と指導性を究明し、札幌市の学校教育の活性化に資する。
- 2 主催 北海道小学校長会
- 3 主管 札幌市小学校長会
- 4 日時 令和3年10月18日(月)
- 5 会場 Google Meetを使用したオンライン開催
- 6 参加者 札幌市小学校長会会員(181名)
- 7 日程 13時30分～14時00分 開会式A・B・C(3つのグループに別れて時間差で開会式を実施)
13時45分～16時30分 支部ごとに研修会
- 8 開会式
 - 開会挨拶 札幌市小学校長会 研究部長 村元秀之(誌面)
 - 会長挨拶 札幌市小学校長会 会長 島田裕文
 - 会長挨拶・情勢報告
北海道小学校長会 会計理事 松村隆志 氏
- 9 研修会
10月発表グループ(学びの支援部・教育環境部・人材育成部)による提言と協議。
中央・東・西・南・北・豊平・白石・厚別・手稲・清田の10支部ごとにオンラインで実施。

学びの支援部の提言

- 「インクルーシブ教育の実現に校長はどう関わるか」
- 「特別支援学級経営のチェックリスト、通知表の作成を通じた校長の関わり」
- 「不登校児童の未然防止「早期対応」「長期化対応」について具体的な校長の関わり」

教育環境部の提言

- 「校舎改修、改築及び民間プール等の使用に関わる現状と校長の指導性」
- 「用務員や事務職員との連携・協働を図る校長の役割」
- 「GIGAスクール構想の実現に向けて」
- 「引取下校訓練から分かる危機管理の現状」

人材育成部の提言

- 「人材育成の方策と働き方改革の推進における校長の指導性」

札幌市校長会の共同研究は、昨年度、7つの専門部（経営研修部・管理法制部・施設財政部・保健体育部・生徒指導部・特別支援部・福利厚生部）を見直し改編し、以下のような組織で研究を進めている。

※印はコロナ禍に関連が深いと思われる研究内容

○ 「学ぶ力」育成部：「学ぶ力」の育成に関すること

- ・「学ぶ力」育成プログラム、授業改善、家庭との連携
- ※教育課程の編成、教科等の指導の配慮事項、ICT を活用した学習支援等

○ 「豊かな心」育成部：「豊かな心」の育成に関すること

- ・ 道徳、命を大切にす指導、いじめ・人権に関する指導、行事・特別活動等の指導、教育相談
- ※生命尊重、偏見・差別、感謝等

○ 「健やかな体」育成部：「健やかな体」の育成に関すること

- ・ 「健やかな体」育成プログラム、体力・運動能力の向上、健康・安全、食育・性に関する指導
- ※感染予防、体育学習の工夫、運動・生活習慣、運動会等

○ 学びの支援部：子どもの支援に関すること

- ・ 教育的ニーズに応じた連続性のある学びの場、合理的配慮、特別支援教育、不登校、帰国・外国人児童生徒等への指導
- ※登校不安、自宅での学習サポート、虐待対応等

○ 教育環境部：環境整備・安全・危機管理等に関すること

- ・ 学校施設、学校予算、地域・校種間との連携、情報管理
- ※3密回避の環境配慮等感染症対策、ICT の活用等

○ 人材育成部：人材育成、働き方改革等に関すること

- ・ 指導力向上・研修・指導体制、教頭・各世代の育成、校内人事・校内組織外部人材、メンタルヘルス
- ※健康管理・ヘルスケア、教員研修、在宅勤務等

本研修会では、2年次研究の1年目の中間発表として、学びの支援部、教育環境部、人材育成部が、各15分の提言を行い、それぞれの提言に対し30分間の研究協議を行った。研究組織の改編にあたって、「提言を聞くだけでなく、せっかくならしっかりと研究協議を行いたい。」という会員の声が多く挙がっており、これまでとは全く異なる、グループ討議を主体とした研修会として実施した。

各専門部2年継続研究の成果を、1年目は研修会、2年目は研究大会として共有することとしている。

コロナ禍の影響や不安がまだ大きい現在、200名の会員が一堂に会しての研修会の開催は見送り、支部ごとのオンライングループの研修とした。

学校経営はまさに問題解決である。校長の仕事は、目指す子どもの姿を具現化するための問題解決である。したがって、6専門部が担当する市小の共同研究は、「自校の問題解決に校長がどう関わるか」を明らかにするためにある。学校によって解決しなければならない問題は様々であり、校長によって解決しなければならない問題の捉え方にも違いがある。コロナ禍への対応やGIGAスクールの推進、小中一貫教育の推進など、どの学校、どの校長も直面している問題もある。

主に各学校での実践事例を基にして進められるこの校長会の研究を、単なる学校紹介で終わらせることなく、①自校の問題をどう見出したのか、それを問題と捉える根拠は何か。②どのような校長の関わりによって解決に向けた学校の動きを作るのか。③その校長の関わりについての検証はどのようにするのか。それらを各専門部の研究内容を通して明確にしていく研究を進めていくことが、私たち札幌市の小学校長一人一人の問題解決に資するものとなると思う。

初めての試みの本研修会は、各専門部の研究を全会員で共有し、3部会の8本の提言を基にした10支部での研究協議によって各校長が問題意識をより鮮明にし、役割と指導性を改めて考える場となった。